



実物投影機も使いながら、「学級で学び合いタイム」各班の話し合いから、わかったことを発表しました。

「学級で学び合いタイム」で、電池の向きを変えると飛んだり、飛ばなかったりすることがわかりました。

<結論>

プロペラが飛ぶか飛ばないかの原因は、電池の向きにある。

<教職員による研究協議会から・・・>

- 予想をたてる時、「モーター」「飛ばす角度」「電池の向き」と考える視点をはっきりさせたのがよかった。
- 「学び合いタイム」の時、個人の実験道具にこだわっている児童が多かった。学び合いタイムの時は、グループに実験道具が一つでもよかったのではないか。
- 「自分で学ぶタイム」で、すでに班のメンバーと話し合いを始めている児童もいた。実験の条件を教師側で精選してもよかったのではないか。
- 発達段階を考慮しながら、クラス全体での考察をする場面は、よいと思う。ただ、本校の研究テーマを考えるなら、まずは、自分で考えたときに、文章に表した方がよいと思う。

<畑中喜秋先生による指導講評>

- ・知識面での本時のねらいは、授業の考察の部分で全員達成していた。どうしてそうなるかを考える能力を養うことが大切である。
- ・回路の復習、説明がわかりやすくよかった。
- ・意欲付けはよかったが、予想が書けなかった児童は、「何が問題か」の認識が足りなかった。授業の最初の師範実験の時、「飛ぶときの例」以外に、「飛ばないときの例」もあげた方が、「何が問題なのか」を児童がはっきりと認識できた。
- ・予想や実験の時間をもっと確保できるとよかった。
- ・学び合いの時には、実験道具を一つにして、ゆっくりと確かめながら実験をしてもよかった。
- ・学び合いの時間にすでに、ほとんどの児童が知識面でのねらいを達成していた。
- ・課題をしっかりと意識させ、個人、班での活動のとき、視点をはっきりさせることが必要。